

トピック

ぐんま高校生震災孤児支援合同募金

3月9日(日)、県内各地で募金活動を展開する若者の姿がありました。東日本大震災後、厳しい生活を余儀なくされた子どもたちのために立ち上がった高校生でした。中心になって活動に取り組んできた前橋高校の山田君に報告していただきました。

群馬高校生震災孤児支援合同募金代表委員会委員長 前橋高校生徒会長 山田凌央

県内8地区で活動

私たち、ぐんま高校生震災孤児支援合同募金委員会は3月9日(日)に前橋、高崎、太田、桐生、館林、伊勢崎、渋川、富岡の8地区でAM10:00~PM15:00まで募金活動を行いました。募金先は◆いわての学び希望基金(岩手県)◆東日本大震災みやぎこども育英基金(宮城県)◆東日本大震災ふくしまこども寄附金(福島県)で、震災で親を亡くした震災遺児、孤児の子どもたちに向けた募金です。

長期的支援が必要

震災から三年が経った今、多くの孤児たちは親類に引き取られ一見すると問題は解決したように思われます。しかし実情は、里親たちが愛情を十分に注いであげられず、ただの子育てにとどまっていたり、経済的な不安を抱えていたり、まだまだ解決には長い時間が必要です。

また、彼らには成人するまでの長期的な支援が必要となります。私たちはその一助になりたい、同じ思春期を生きる子どもとして、私たちが彼らにできることをしたい、そんな思いからこの募金を始めました。



事務局の安達君(高崎高校・左)と山田君

高校生の善意が原動力

さて、この活動は今年で実質三回目となりますが、実は去年、前橋高校の不手際で一度組織自体が解散されました。それ故に今年は組織作りからのスタートとなり、はじめは前橋高校、高崎高校、太田高校の代表4人からの開始でし

た。この募金組織を形作っていく中で私を感じたことは、人を動かすのはほかでもない「善意」である、ということです。もちろん、私たちが行った活動を偽善であると非難する人もいでしょう。それは仕方のないことですし、それが目的を得ているのも事実なのかもしれません。しかし、この募金に参加してくれた彼らに虚栄心や利己心があったなどとは私は思いません。これはこの募金を運営してきたからこそ言えることかもしれませんが、彼らは「被災地の皆さんの役に立ちたい」それだけを考え、動いてくれたのだと思っています。

さまざまなことを学んだ

私たちは、この募金を通して人と仕事をする上で大切なことや情報交換の重要性など様々なことを学びました。この募金は私たちが成長する機会を与えてくれたともいえると思います。私たちはこの組織体系で代を継ぎ、募金を続け

ていく予定です。高校生が社会貢献できる機会は探せばいくらでもあります。この募金をきっかけとして、多くの高校生がそのような活動に参加する機会があれば幸いです。

2014年度もやります

この募金で集まったお金は1,718,363円です。多くの方々にご協力していただき、本当にありがとうございました。2014年度も行いますので、街で出会う機会がありましたら、宜しくご協力をお願い致します。